札精セ第1566-2号
令和８年(2026年)11月13日

関係各位

札幌市精神保健福祉センター所長
棚橋　幸野

令和８年度札幌市自死遺族支援研修会について（御案内）

時下、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より札幌市の精神保健福祉行政に対し御理解・御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

札幌市では「札幌市自殺総合対策行動計画2024」を策定し、庁内関係部局、地域の関係機関等と連携して自殺対策を推進しております。

また、本計画では、自死遺族等に対する支援の充実を基本方針として位置づけており、推進を図るため、取り組んでいるところです。

自死遺族は、社会の偏見や誤解等によって、大切な人を失ったことを周囲に話せずに孤立してしまうことも多く、つらい状態が長引くときは、医療機関や相談機関等への相談が必要な場合があります。自死遺族の相談や支援に携わる医療機関や相談機関等の専門職の方々、及び地域で見守りや支援に関心のある方々が自死遺族特有の心情等の理解を深め、支援に活かしていただくよう、支援の充実を図ることを目的に、このたび、標記研修会を開催いたします。

つきましては、業務多忙の折とは存じますが、関係職員への周知についてお願い申し上げます。

また、参加につきましても御配慮下さいますよう重ねてお願いいたします。

【送付資料】
令和８年度札幌市自死遺族支援研修会　チラシ

【担当】札幌市精神保健福祉センター（札幌こころのセンター）
相談支援係　武田、清水川
Tel：011-622-5190（代表）　Fax：011-622-5244
E-mail：kokoro-c@city.sapporo.jp（研修問い合わせ専用）

# 令和８年度　札幌市自死遺族支援研修会

大切な方を自死で亡くされた方が、どのような想いを抱えているのか、そばで寄り添うということについて、一緒に考えてみませんか。

## 2026年12月18日（金）18：30～20：30

（会場受付・Zoom入室　18：15～）



テーマ

## 自死遺族に寄り添うということ～今の想いを分かち合う対話の意味～

【講演内容】
- グリーフについて
- 自死遺族が直面する困難（こころや体の反応、行動の変化等）
- 対話を続ける意味と、支援者のあり方　等

【講師略歴】
1957年5月　北海道釧路市生まれ
1996年　自死遺族の思いを語る集い(癒しの会)をはじめる
1998年　札幌医科大学保健医療学部看護学科　着任
2020年より北海道家庭生活総合カウンセリングセンター代表理事



**講師　吉野　淳一　先生**

【対象者】　自死遺族の相談や支援に携わっている方、これまでに支援に携わった経験のある方、及び地域で見守りや支援に関心のある方。

【開催方法】　会場とWeb（Zoom）のハイブリッド（対面：50名、Zoom：70名、先着順）

【受講費】　無料

【会場】　WEST19　２階　大会議室　（札幌市中央区大通西19丁目）

【申込方法】　右記二次元コードもしくは以下のURLにアクセスいただき、申し込みフォームに必要事項を入力の上、お申し込みください。

①会場参加　https://forms.gle/pu5CV32zN8CESGG96

②WEB参加　https://forms.gle/sN5mFsTzbN4SKd1E6

会場参加　WEB参加

【申込期間】　令和８年（2026年）11月20日（金）～12月11日（金）

【お問合せ】　札幌市精神保健福祉センター（札幌こころのセンター）
TEL　011-622-5190（代表）平日8:45～17:15
メール（研修問合せ専用）：kokoro-c@city.sapporo.jp
担当者：相談支援係　武田・清水川

SAPPORO

さっぽろ市

R8-2-1425
02-F04-26-2265